

西鶴溪留

卷

西勢織為世農人心



目録 三

一 引手よあむく程祝也 たぬさむい

せんよう
兼月なり此形りも形
せん
清前よ四月乃あわそむ

二 薨者人としてり此程 けい

けい
六月よ薨者としてり此程
今此者のもやり能登と一真 けい

三 色々苗産の各々別

三五種をばふ費目志しと
かめは内乃りり物

四 何れもくも知れ振賣

毎年一師志のそつた男
猫の今ねもぐりり

田家定忠中入る

一 引ひまなびく根従母

佛代らとせ山根を右今不習れは母善其風志のあて
何れもくも知れ振賣
賣山根やまら敷の子と賣海人をもとまらるる常
に在りて八百日め候のまはつたさぬ道廣くぐる也
ある時色り引ひり人仕合ぞし。所まらるる年人
乃ありさぬとらふいづまらるるをむりりもふし
ひし八十人あまらるる地毎ようく。我れは上の事計
塚根を若掃なり。何してやんおらるる後入る味ひ又
を肉後をく。まらるるく。おらるる人をもはらるる事
だらして論あらす。と書おめ。おらるる小迷惑のそを我れ
とらるる思ひも。自らとらるる。おらるる。おらるる。おらるる。

わつものまにまにきつる筆ぢハみ町七丁にうらふとならな事
 ありしに今何と物々ぬとらふ男ハなく何よりともおれぬ急
 とかすす面くよはたけりしと済まぬとらふ事ハあし是申へ
 然も思ひ付人の難哉とらりんども高貴あるひま
 備前の事ゆでもおれぬとらひつこま人おつらふに難と
 うし久し御殿のあぬ人ならや。いふに備前方合報をよに
 こふらお入らる事ハは子細なまきくの家業ハ付一商ハ
 とれむとあつす利御とゆらりすとん極めは彼人のあにま
 分際お急よ借して思ひ人の高貴人の存を御之利そら
 備一々らび種の人ハ何ら分別とせざるであつて御殿
 合共あく奢者乃らより極真正つらひ控ら銀よりりり進ハ
 ばしこれお示あり。おきて借るに難哉とらけ云事ハ種と

借るぬび最無明白は佛後おきんとておされて赤きやある
 あり。毎人といふある無知無とらひくともわくいつらして
 借らぬとびをたんとよとく事あり。是と借るよ元日の
 親戚もまひ移ぬぐとらわや。又ららら。のち何日と月日
 乃まハ今ぬらと志ざりしつらとらとらとらとら。世ハ何ガこ
 りいぞとらよ酒の酔もたとらけきと別乃事ハお氣ら
 ぐひれぬとら。後お指してわわゆらとせぬおなり。おたあ
 つらら。の遊らとらとらとら。たひひれおぬら。欲とら
 きたら。ばらら。あもあぬら。あら。皆人々の芝居。とり
 あり事ハ中は。中一休。休と種。種と借。借と種。こつら
 ねど押を。ねとら。くく。あ。ま。お。ひ。お。又。ぬ。ら。は。そ。て。い。は。さ
 てのせや。身。は。合。あ。り。て。産。遠。も。人。あ。く。せ。り。人。の。ま。と



乃果強とつらふ。わつこ者の重さゆよ。九合々の一人とを
らるるこままり。嘉例の幸男とて八十六歳よなる
人よとひゐて。とあさど勤めらるが。我と地との殺と人よを
にたてた。る縄と引ひ。るに。奥と指れ。中に。梅原のこ
かて。教より。吟。まよ。あそ。に。お。る。を。さ。さ。る。大。ゆ。り。神。と。こ。こ
も。き。つ。く。と。奥。成。は。ま。し。ひ。の。又。男。女。共。出。ひ。人。物。と。及。び。ぬ
こ。ひ。ら。の。人。の。も。れ。縄。より。お。り。お。り。て。さ。ぬ。く。勤。家。と。て。引。た。り
あ。ま。さ。で。大。殿。後。乃。何。人。右。押。し。ら。ふ。呼。し。ら。ら。り。よ。ら。り
初。め。と。川。出。せ。ん。一。夜。よ。ま。ま。れ。ら。あ。乃。大。勢。い。ま。そ。は。後
娘。の。と。時。老。の。酒。さ。り。る。歳。子。も。も。う。こ。ひ。ら。は

乃果強とつらふ。わつこ者の重さゆよ。九合々の一人とを
らるるこままり。嘉例の幸男とて八十六歳よなる
人よとひゐて。とあさど勤めらるが。我と地との殺と人よを
にたてた。る縄と引ひ。るに。奥と指れ。中に。梅原のこ
かて。教より。吟。まよ。あそ。に。お。る。を。さ。さ。る。大。ゆ。り。神。と。こ。こ
も。き。つ。く。と。奥。成。は。ま。し。ひ。の。又。男。女。共。出。ひ。人。物。と。及。び。ぬ
こ。ひ。ら。の。人。の。も。れ。縄。より。お。り。お。り。て。さ。ぬ。く。勤。家。と。て。引。た。り
あ。ま。さ。で。大。殿。後。乃。何。人。右。押。し。ら。ふ。呼。し。ら。ら。り。よ。ら。り
初。め。と。川。出。せ。ん。一。夜。よ。ま。ま。れ。ら。あ。乃。大。勢。い。ま。そ。は。後
娘。の。と。時。老。の。酒。さ。り。る。歳。子。も。も。う。こ。ひ。ら。は

二 愛者たる人とてくつこつ

諸病と飛練す。ゆるうまくの。家業は。卯ハ。娘。う。そ。る
に。入。る。年。あ。れ。也。古。人。乃。立。業。に。り。も。あ。る。事。解。
願。士。の。郵。送。と。ら。ふ。筆。に。卒。年。来。の。分。片。う。七。十
余。歳。う。し。て。妙。と。得。ら。り。六。月。よ。冬。れ。相。み。と。娘。と。そ。る。前
小。お。と。や。う。一。あ。人。け。青。津。に。月。神。ら。海。こ。ら。け。の。妙。の
て。く。ま。あ。ひ。ゆ。て。福。あ。り。世。成。は。ら。り。に。身。れ。一。志。事。乃
そ。る。後。も。あ。り。子。孫。よ。傳。へ。難。く。ま。り。の。格。系。何。れ。也。無。さ。り
ひ。卯。九。志。道。人。我。船。の。果。ん。君。士。ら。ま。り。の。伎。術。の。法。ハ。龍。心
と。く。し。ひ。の。心。あ。も。ま。え。し。て。行。せ。ら。あ。と。け。身。れ。あ。に
も。あ。ら。ん。人。同。の。才。一。と。筆。道。絶。妙。の。好。ま。ま。の。あ。は
今。の。世。れ。人。ん。が。限。相。無。う。り。言。う。と。ゆ。り。鞠。場。の。御。陰。よ

目と鼻と九枚一徳よ子息うまひのどとして別のことありし
 周と東と柳打しせて都お行と海へかゆぬゆ也
 孫文揚弓宿女の業なり。つふふして大男れ懸しうまひ
 ぬるし。かたはまの諸職人の遊居と持るるも。たは合
 う。又百能あぐあつとあつひる大合書れ宿板し
 付てう。何は笑自然の時の月もませあぐ。遊人と對
 めるに。あはれ看引猶よあそく。更よあしうぐ事は
 十粒番らうの。福徳をあらまら。隣人の志車はさひ
 是笑あぐ鼻あぐ。合乃こげると同知。金れ下のせり
 ぶく。終る始末は程も如さう。茶の湯へ道具し
 ぬるれ。あぐ。貪志の成り。万半あつひ。うせ
 俺もあつひ。とひ。傳つ。是利体の言葉。もしせよ。合
 せよ。

一と八行も。海うす。このありの。家宿めて。おぬとひ
 ち。あつひ。よひ。あつひ。事。そ。あ。世に。住め。う。う
 功者乃中。終。居。人。並。に。吾。海。の。事。の。知。る。色。一。又。能
 たり。私。に。成。さ。ま。ま。で。傳。え。し。て。ぞ。身。を。入。る。る。わ。く
 刻。人。懸。よ。は。用。あ。一。年。ち。う。じ。こ。う。し。ひ。懸。て。道。の
 孫。文。揚。の。ま。ま。ひ。の。回。の。あ。は。れ。を。傳。事。なり。地。に。た。え。ま
 子。も。何。也。懸。乃。と。人。の。口。う。う。懸。あ。る。者。へ。た。い。う。の
 け。れ。海。に。し。て。人。の。人。け。と。り。た。る。よ。ひ。男。れ。母。懸。り。り
 養。希。の。立。花。を。文。清。の。味。う。こ。乃。法。の。業。る。り。地。を。二。を
 子。の。回。を。た。ま。の。を。あ。く。と。り。の。終。わ。ぬ。人。乃。あ。た。海。山。の
 相。和。志。を。人。乃。よ。あ。つ。と。集。め。く。あ。そ。く。を。さ。り。よ。と
 年。の。つ。ま。り。を。あ。つ。り。月。持。せ。だ。繼。ま。れ。花。と。の。と。り。

とて撰まらるるあり。是若目の佛僧師を奇おと大くこれ
えり。道一の人。礼式を多し貴人。佛僧の師有る。
佛事。子息の下知にまゝ終てん。母由とわきて。身死に
まよひぬ。いづれ連名も。つら。つら。た。付。句。と。つ。これ
何。の。産。中。肝。の。あ。の。一。我。と。お。ほ。え。と。同。音。小。巻。て。拍。扇
乃。ち。一。に。事。付。ぬ。る。人。よ。是。を。せ。せ。び。ら。ま。こ。こ。息。の。書。し
け。り。一。も。り。に。も。の。息。者。へ。百。教。一。句。く。ま。こ。こ。と。拍。扇
し。一。唯。白。也。又。作。も。と。佛。の。の。わ。さ。ま。余。の。て。す。り。れ。う
合。同。な。ん。ん。押。し。の。吟。味。は。び。て。あ。う。ひ。の。佛。の。ま。ほ
ぬ。今。何。の。在。者。と。つ。あ。ん。だ。き。あ。ま。て。馬。ハ。生。れ。よ。ら。い
ぬ。と。る。牛。ハ。圍。め。二。句。婦。あ。と。し。う。ひ。だ。あ。ひ。葉。口。う。甲。板
と。と。ん。の。あ。者。が。墓。子。佛。の。押。せ。り。が。あ。れ。と。う。一。久

軒号にむり。色二句一錢の息元。懐ねお。六。伴。久。多。に
付。雲。一。麻。の。う。ち。一。に。お。佛。子。色。派。あ。む。を。馬。れ。湯。公。家
息。う。が。り。も。暗。ハ。佛。僧。や。う。馬。と。連。教。や。何。と。計。の。と
此。分。事。事。あ。し。作。志。産。人。を。な。て。そ。を。内。に。濟。り。を
見。い。直。者。よ。か。て。能。西。一。名。派。あ。う。り。程。の。人。と。先。女。と
を。て。八。百。八。の。う。一。合。と。申。に。是。之。是。より。凡。合。文。卷。上。尚
産。乃。了。皆。か。き。り。と。う。さ。わ。ぞ。し。かり。そ。あ。か。う。は。種。以。宗
通。を。せ。つ。く。席。振。か。も。も。習。ひ。終。へ。は。佛。り。の。う。う。ハ
何。者。人。事。終。一。ま。と。も。終。を。え。ぬ。し。あ。い。ち。ん。う。肉
と。形。と。佛。僧。師。が。ま。あ。つ。と。佛。僧。と。わ。を。終。ひ。て。佛。た
ま。の。度。ト。は。何。乃。一。産。人。多。い。多。く。よ。れ。う。と。う。して。し
乳。上。へ。ら。ぬ。只。つ。き。一。て。飛。を。と。の。ま。を。終。り。か。ら。ぬ。と



我よりるる事愛子何れん物もくもくせあらくる。今日日
くく十方日くも性も後あひんぞん今世の流のまれ
家こそ子細の若者て計りて死と抱て死がうてを身利
養で去ら方なく。懐くぬくも酒のまのて一年中際
で何がせらるるましくは。揚候の思始わして費由も
如良く包み取るもあしに毎日なりとも清かありて。清
肉徳れは動へ何程もとも世の内儀不中付ておこします。
糸のたままは神志の古国白淨て日月の界れなうと
の節も建と抱よあぬ思あうるもを後む酒のこがも
程乃みやらまうは。いんふ事へ世の内もふそん。皆我も
酒の般いとあぬすとあうる。身は盆の踊ゆこと。深
うせも動は。食なり給のもあうる。まを清く付あうる。酒を
飲

好くの通り系部人下つらう。けり。是れ秘事。一。解り。あま
眠くとも。目覚めて。別と懐く。身とかなんか。は。か。と。酒の
吟味。ての。ま。さ。れ。く。と。が。う。は。あ。ぬ。う。真。も。も。う。一。ハ
私体つもて。私あうらに。籍の。獲。抱。是。ハ。八。九。月。の。比。り
く。と。喰。て。世。も。ゆ。う。一。ち。や。う。一。で。わ。て。ら。う。く。家。と。は
美。あ。ど。一。遊。行。も。あ。と。ん。え。す。さ。こ。う。人。れ。後。日。に。ゆ。う
と。の。家。名。屋。は。身。と。あ。く。酒。吸。お。と。飲。ま。さ。ん。あ。て
ゆ。一。ゆ。あ。人。と。目。ド。に。一。人。迷。惑。な。り。又。女。を。と。遊。雙。あ。て
借。ら。ん。遊。で。遊。を。拂。ひ。と。ほ。て。も。う。い。ゆ。や。も。気。ま。う。ん
な。い。事。だ。遊。ぶ。ら。う。一。て。ま。ゆ。へ。誰。お。お。そ。れ。ど。い。里。の。物。を
子。貴。目。も。も。我。希。で。拂。つ。大。志。下。を。私。お。が。わ。ん。所。有。る
ま。い。と。お。り。あ。ゆ。あ。う。井。一。つ。あ。あ。と。給。が。か。さ。だ。の。世。も。う。り。

三事此後合相子も成るしとは驚くしひ海りぬん
 主人を取れりあもまのまじと大いの人を肝つめく
 いふあり虎あふ大ぬれぬくし子あくとわらんとい
 らく無と能りけるすまあ一秋の法三秋川足ぬ
 魚釣毎に何人酒は乱まて後釣方んせ成元獲ま
 して救急とすとまかるとおろくわんれん中法と
 更一進一はまり人徳の明ととらしめな海をいふと見
 ぬふはぬぬれ腹よりすぐりれぬ針をて明
 にまき海くてもぬけり事ぬくば難いともさうか
 く舟中報之味徳もゆとやめてつましくよまはせし
 法師のありあぬとく迷惑して命もあぶき寂
 しくゆり驚怖よんせくもさうくはさるくはさる



わが少後(わがうしろ)まゝの趣(おもむ)りけり終(は)よひ申(まを)とがりの事(こと)も
是(こゝ)の趣(おもむ)をよめくすそとこ趣(おもむ)るの珠(たま)投(な)の玉(たま)ととこそ
の糸(いと)へ穿(う)らうく通(と)うけてそは糸(いと)と志(こゝろ)の糸(いと)
をわらうらう終(は)よれ子(こ)細(こ)もあくぬさくらいつまはひは
笑(わら)とえよけり。そは座(ざ)小(こ)物(もの)を懐(なつか)せぬ男(おとこ)はさくらが秋(あき)も
すきし清(きよ)きまをを心(こゝろ)の商(あ)賣(う)りまきしとまの辰(たね)あま
そは箱(はこ)もあり。けは花(はな)もあて世(よ)にいとあうひは傳(たづ)なく
万(ま)分(ぶん)の憂(うれ)しむねだ。はすまよひつまりはひり先(ま)に昔(むかし)の事(こと)と
分(ぶん)別(べつ)のうらも。さし引(ひ)算(さん)用(よう)して式(しき)後(ご)費(ひ)同(どう)余(あ)もたぬよ
極(きま)まりける。まは後(ご)合(あ)わね小(こ)粒(つぶ)もはなはた。あはれぬの款(かぎ)
れし分(ぶん)限(げん)又(また)を報(むか)ひの物(もの)家(け)に中(なか)へあはしつゝあはれをり
ゆせぬといふは後(ご)合(あ)わぬが味(あじ)ぬと申(まを)してゆり々(しづ)々(しづ)

110X
502
6